

全日本医師剣道連盟報

— 第 33 号 —



札幌時計台



全日本医師剣道連盟

連盟会長挨拶

全日本医師剣道連盟 会長 野見山すすむ



皆様、こんにちは

横浜大会より早くも8ヶ月がすぎ、恙なくお過ごしのことと存じます。

大会の開催予定も令和8年までは決定しております。札幌での幹事会では令和9年度開催についてご報告したいと願っています。令和10年度以降は、近畿、東北、中四国での開催が望まれます。

皆様ご存じのように、打突前から終わりまでの流れにつき、露の位、石火の時、梵鐘の位と表現されています。また構えの上段、中段、下段、八相、脇は五行では火、水、土、木、金と記されて

います。中段は攻守兼備、機（期）に応じ変幻自在とされ、剣道修練の中核をなす構えともいわれています。

露の位は小さな水滴ながら、丸い形のなかに、満々と力をため、時来たれば迷うことなく滑り出て、止まること無しと、放心の心、機を逃さず打ち（攻めの実体化）にでる教えをしめされているそうです。私が六、七段をいただいた頃、長きにわたって教えをいただいた故棚谷昌美先生の書に露堂々という文字があり、面下手拭いとして昨年の大会でお配りしました。

沢庵宗彭禅師は不動智（神妙録）のなかで、不動智は心を一所にとどめないことと教え、ひとところに止まれば遅れ、全てをみれば遅れることなしとしています。また水のごとく、心をあまねく広くしみわたらせることが肝要で、おなじものでありながら、氷となればいきわたらず、ともいましめています。

故小川忠太郎範士が神奈川県で講演をされたときに剣の理法は自然ということ、天然自然の道が理法の極地であり、人が変えられるものではない。春になれば花が咲き、秋になれば葉が枯れ落ちる、そのようなものであり、頭で考えるものではないとのべられています。

露が流れ落ちる時を知るように、満を持して時をとらえるように、心を居着かせず、機を感じたときには打突が終わっている、そこに意図するものなく、気がつけば終わっている、そのような姿を教えられているのでしょうか。心がけてはいますが、なかなか難しいものだと感じます。

交剣知愛、札幌でさらに静岡の地（藤沢市）でお会いできることを楽しみに
しております。



札幌大会（第58回大会）告知

第58回全日本医師剣道大会 in 札幌へのお誘い 憧れの大地北海道で最高の交剣知愛を

第58回全日本医師剣道大会 札幌大会会長 池澤清豪

この度、札幌にて令和7年6月14・15日本大会を開催させていただきます、また前日13日金曜日夜の稽古会も用意していますので、多数の参加をお待ちしております。

会場は札幌駅から車で10分程度の北ガスアリーナ札幌46です。ここでは火木会主催での火曜日・木曜日の朝稽古（6時～7時15分）、札幌剣道連盟主催での土曜日、日曜日の朝稽古（6時～7時20分）が行われています。自由参加ですので時間の都合がつく方は是非参加してください。本大会も朝稽古のあとに開始します。

札幌の開催は3回目で1回目が昭和48年第8回（内藤詩郎会長）、2回目が平成14年第37回（道下俊一会長）の下で開催しました。今回、21年ぶりの札幌の大会となります。また、本大会に際し、北海道剣道連盟、札幌剣道連盟の全面協力を得て準備をしております。

札幌は1869年（明治2年）に北海道という名称を松浦武四郎氏（三重県）が考案、同じ年に札幌を江戸の城下町、京都の町のような碁盤の目の街づくりを島義勇氏（佐賀県）が考案したのです。つまり、北海道も、札幌の街もまだ156年しか経過していません。このように歴史が浅くとも、観光地、自然、食材など日本ばかりでなく世界的にも有名な且つ魅力的なものが沢山あります。ましてや剣道においては日本を代表する人々が多数いることは剣道人にとっては当然の如く知られており、今回の大会にも喜んで参加して下さるので、是非、剣を交えてみてください。

■北海道と言えば、でっかいどうと言われるぐらい土地が広大



東京都の35倍



九州の2.5倍



台湾と比較



韓国とほぼ同じ

■北海道といえば？食べ物がおいしい

海産物ならウニ・カニ・ホタテ

野菜ならジャガイモ・トウモロコシ

果物なら夕張メロン・でんすけすいか・とうもろこし

し

食事ならジンギスカン・イクラ丼・札幌ラーメン・イカの塩辛

お米 蘭越のお米“ゆめぴりか”が秋田のお米を抜いて日本一となりました。

お菓子 白い恋人（石屋製菓）マルセイバターサンド（六花亭）生キャラメル



■観光といえば

札幌雪まつり・札幌すすきの（日本一の歓楽街）大通公園 狸小路商店街

札幌時計台（日本三大がっかり観光地と言われている あとの二つは長崎・オランダ坂 高知・はりやま橋）

小樽運河・小樽オルゴール堂本館・ここは美人が多い

函館五稜郭（ごりょうかく）・函館朝市（イカソーメン）

旭山動物園

富良野（ふらの）ラベンダー畑

阿寒湖のマリモ

宗谷岬（日本最北端）・知床半島（世界遺産）

紋別・網走の流水 帯広ばんえい競馬



■夜景といえば

函館夜景（世界三大夜景の1つ、香港・モナコ・函館）（日本三大夜景の1つ、函館・神戸・長崎）

札幌藻岩夜景（日本新三大夜景の1つ、北九州市・札幌市・長崎市）



■スポーツといえば

北海道日本ハムファイターズ・エスコンフィールド HOKKAIDO

コンサドーレ（サッカー）レバンガ（バスケット）

ゴルフは札幌輪厚ゴルフ場・島松ゴルフ場・小樽カントリーが有名

ニセコスキー場（70%以上外国人）札幌大倉山スキージャンプ・北見カーリング

■剣道といえば

剣道五天王（古川和男先生八段戦優勝・佐賀豊先生全日本学生優勝・栄花秀幸先生八段戦優勝・栄花直輝先生全日本選手権優勝・八段戦3回優勝・林朗先生全日本選手権優勝）

五天王は今大会に全員参加します。

札幌朝稽古6時～7時15分（火・木・土・日）北ガスアリーナ札幌46（誰でも歓迎）

北海道神宮・養心館（月・水・金 夜7時から8時まで 師範古川和男先生）など 他の道場においても「来るもの拒まず」の精神で自由に参加できます。

■スターといえば

大泉洋・安住紳一郎・長谷川初範（小中高ともに剣道）生田斗真・小日向文世

タカ&トシ・とにかく明るい安村・バービー・吉村崇・長谷川雅紀（錦鯉）・池澤清豪

松山千春・玉置浩二・中島みゆき・北島三郎・細川たかし・牧村三枝子・大橋純子

■特徴といえば

野生動物ではヒグマ キタキツネ エゾユキウサギ タンチョウ鶴
（ヒグマによる死亡事案を含む人身事故が毎年発生しています。）

野生のキタキツネは、エキノコックスという寄生虫を保有していることがあり、万が一人間に寄生した場合、死にいたるケースもあるためキタキツネに遭遇しても熊同様、触れてはいけません。



梅雨の季節がない（7月後半蝦夷梅雨がありますが大雨になることはありません）

ゴキブリはいません（最近函館・札幌の飲食店にいるようですが、家庭ではみません。本州に比べ一回り小さいという特徴）

美人が多い（私の女房は東京人です。残念）

気候、四季がはっきりしている

冬は寒いが、夏は涼しい

冬の最高気温が0度未満という真冬日が当たり前。

雪かきや雪おろしが大変。冬が寒すぎる。雪まつり 毎年2月連休に開催
その代わり

夏は涼しい。クーラーの設置率は25%前後であったが

ここ2・3年の猛暑の日々も多く、生活が変わり始めている。

酪農・牧場・乳製品

牛や馬などの家畜と牧場が多い

乳製品王国。うまい牛乳・バターなどの乳製品

北海道のお土産は

ほとんど千歳空港で買えます。空港にラーメン横丁もあります。



ラーメンは札幌（味噌・ちぢれ麺）、旭川（醤油・ほそ麺）、函館（塩・ほそ麺）

お菓子は 白い恋人・マルセイバターサンド・ジャガポックル・三方六・夕張メロンピュアゼリー・花畑牧場ポップコーン・北海道農学校

などお土産に買っていけばハズレはありません。

「全日本医師剣道連盟」の三大修行

1. 心の修行
2. 技の修行
3. 和の修行（酒行）

懇親会、飲んで食べて、また飲んで、心ゆくまでの120分1本勝負。

「全日本医師剣道連盟」の稽古心得三訓

1. 交剣知愛
2. 生涯剣道
3. 心身壮健

これらを踏まえて、医剣の主旨「交剣知愛」を充分に感じとる大会にしたいと意気込んでいますので、遠方ではありますが、是非、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

大会概要

2025年 第58回全日本医師剣道大会 in 札幌

開催日：前夜祭6月13日（金）、本大会14日（土）、15日（日）

場所：北ガスアリーナ札幌46（3日間ここで）

住所：北海道札幌市中央区北四条東6丁目

電話：011-251-1815

最寄り駅：バスセンター前駅 [10] 徒歩10分

※札幌駅周辺のホテルからタクシーで約1000円前後です。タクシーが一番便利です

会費：参加費 1万5千円（当初2万でしたが会より協賛金80万頂きましたので）

懇親会 1万5千円

前夜祭

6月13日 金曜日

17：30～19：30 夜の稽古会（剣道室）

※ここでの稽古会は今回の全日本医師大会の参加者のみ。自由にお互いに稽古をしてください。

※防具は自分で持ってきてください。宅配便は受け付けていません。但し、15日帰りの宅配便は交渉中。

※13日14日は防具を道場に置いてOK。

※稽古後シャワールームあり（シャンプー用意しますが、バスタオルは各自で）

21：00 ススキノにてジンギスカンパーティー

場所：ジンギスカン 羊々亭 札幌本店 50名前後の予定

札幌市中央区南4条西4丁目松岡ビル5階（すすきの駅から徒歩30秒）電話011-241-8831

会費：5000円

※稽古後 シャワーを浴びて、タクシーで直接行くのが便利。タクシー代は北ガスアリーナから2000円前後

※ジギスカンは匂いが付くので、絶対に正装では来ないで。ジャージでも大丈夫です。

本大会

6月14日 土曜日

6：00～7：30 札幌市朝稽古 自由参加

※札幌市剣道連盟における恒例の稽古会です。ここでは北海道各地からの剣士が集まります。100～150人前後。皆さまも自由に参加してください。

※朝食は用意していません。コンビニで買ってきてください。

8：30 大会開会式（アリーナの体育館）

※着替えは1階の剣道室でお願いします

※翌日のため防具等置いていかれてもOK

9：10 八段との模範稽古（あくまでも予定、予定変更有）

教士八段 藤原広臨 52歳（立ち合い岡嶋 恒範士）

対 前回20・30代優勝者 五段 十一竜馬（31歳）

対 前回40代優勝者 教士七段 井上雅史（48歳）

対 前回50代優勝者 教士七段 大岩 真（59歳）

教士八段 池澤清豪 72歳（立ち合い武田牧雄範士）

対 前回60代前半優勝者 教士七段 新藤 寛（63歳）

対 前回60代後半優勝者 教士七段 堀江 貴（68歳）

対 前回70代優勝者 教士七段 椛島悌蔵（77歳）

9：30 八段模範演武

教士八段 野見山 延（79歳（立ち合い 古川和男範士）

対 教士八段 宮坂昌之（77歳）

対 教士八段 三条貞夫（72歳）

9：50 個人戦 年齢・性別で（試合数は変更有）

女子の部 20代30代の部 40代の部

50代の部 60代の部 70代の部

2分3本勝負、トーナメント形式

勝敗が決しないときは2分間の延長戦1本勝負を行い、それでも決しないときは判定とする。

審判は八段の先生が多数います。

12：30 昼休み

※昼食のお弁当用意しています。

※役員会 別室で用意しています。時間厳守でお願いします。因みに来年の開催地は静岡県です。

13：30 日本剣道形 打太刀 教士八段 佐賀 豊先生
仕太刀 教士八段 栄花英幸先生

※日本一の剣道形を見てもらいます。

※自撮り、他に流しても OK です。了承を得ています。

13：45～14：50 栄花直輝先生（教士八段）の剣道教室

※極上の剣道指導を堪能してください。

15：00 元立ちの八段の先生ご紹介（予定 計17人）

15：10～16：00 元立ち稽古

範士八段の先生

山城宏惟先生（沖縄出身、国士館卒、教員（校長）、
元・札幌剣道連盟会長）

武田牧雄先生（元北海道警察特錬、北海道剣道連盟会長）

古川和男先生（長崎出身、東海大卒、八段戦優勝、世界選手権監督）

岡嶋 恒先生（東京教育大卒、教育大学教授、札幌剣道連盟会長）

教士八段の先生

林 朗先生（法政大・全日本選手権優勝・会社員）

佐賀 豊先生（筑波大・国体優勝・教員）

栄花英幸先生（東海大・八段戦優勝・教員）

栄花直輝先生（東海大・全日本選手権優勝・八段戦3回優勝・警察）

今野裕樹先生（日体大・刑務官）林 満章先生（東海大・教員（校長））

岩橋亮典先生（東海大・刑務官）炭屋尚宏先生（東海大・警察（特錬））

若生大輔先生（国際武道大・全日本選手権準優勝・警察（特錬））

全医剣から教士八段

野見山 延先生 三条貞夫先生 宮坂昌之先生

藤原広臨先生 池澤清豪

16：00～16：20 自由稽古

※稽古後シャワールーム使用できます。

18：00～20：00 懇親会 in 京王プラザホテル
札幌駅北口から徒歩5分
〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西
7丁目2番地1
TEL 011-271-0111 (代表)



ご招待 山城宏惟先生 武田牧雄先生 古川和男先生 岡嶋 恒先生
林 朗先生 佐賀 豊先生 栄花英幸先生 栄花直輝先生
8名

先生方には各地域のドクターとの交流を図るため、皆様の席についてもらいます

6月15日 日曜日

6：00～7：30 札幌市朝稽古 自由参加

※札幌市剣道連盟における恒例の稽古会です。ここでは北海道各地からの剣士が集まります。120～150人前後。皆さまも自由に参加してください。

※朝食は用意していません。コンビニで買ってきてください。

8：30 大会開会式

集合写真撮影

9：15 団体戦（7人制を予定しています。組み合わせは当方で行います）

試合はトーナメント形式 試合時間は2分3本勝負。

代表戦になった場合、最初に引き分けた者同士で2分1本勝負とします。

12：00 閉会式・表彰式

挨拶&講評 古川和男先生

12：30 解散

お問い合わせ先 池澤清豪メールアドレス (fujigaoka@sfoc.or.jp)

なにかありましたら、メールにてご連絡ください。

横浜大会（第57回大会）開催記

第57回全日本医師剣道大会神奈川 いざ、ヨコハマ！交剣知愛！開催報告

大会実行委員長 江端広樹



大会実行委員長を務めさせていただきました江端広樹です。第57回大会の開催報告をさせていただきます。

神奈川県では第41回大会を平成18年4月に今回と同じ野見山すすむ大会長のもと相模女子大体育館で開催しておりますが、今回は横浜での開催となりました。

大会会場は、神奈川県立武道館が改修工事に入っていたため横浜武道館での開催も考慮していたところ、令和6年4月以降であれば改修工事も終わり県立武道館が使えることになり、工事が終わったばかりの綺麗な剣道場で大会を開催することができました。

しかし、例年4月に開催されることが多かった全日本医師剣道大会が6月1日開催となり、しかも土曜日1日で全行程を行うという強行スケジュールでの開催となりました。

5月31日（金）の前日稽古会では神奈川県剣道連盟の八段の先生方十数名に加え、東京から遠藤正明範士に参加していただき、充実した稽古会・指導稽古が行われました。

6月1日（土）の本大会の開会式では野見山すすむ大会会長挨拶（写真1）、



写真1



写真2



写真3



写真4

神奈川県副知事 首藤健治様、全日本剣道連盟会長 網代忠宏様、神奈川県剣道連盟会長 幸野 實様から来賓挨拶をいただきました。

その後、神奈川県剣道連盟副会長 佐藤正二教士八段から審判長説示があり、神奈川県の宮下薫選手による選手宣誓（写真2）が行われました。

次に公開演武となり、打太刀 江端広樹、仕太刀 高塚洋二による日本剣道形（写真3）が行われました。日本剣道形は、私の所属する求道館富田道場に高塚さんに来ていただき特訓を受け、仕上げに高塚さんの所属する横浜公武会で日高穂幸教士八段に指導を受けました。

八段模範立会では、医師で八段の池澤清豪教士（北海道）一藤原広臨教士（京都）、三條貞夫教士（歯科、山形）一宮坂昌之教士（大阪）が行われました。藤原広臨教士は令和5年11月に八段に合格（当時51歳）され、今大会に参加していただきました。

いよいよ試合です。4試合場で、審判員は神奈川県剣道連盟の教士八段、教士七段の先生方に務めていただきました。

午前の部 年代別個人戦トーナメントは、試合時間2分1本勝負 勝負が決しない場合は年長者の勝ちとする特別ルールで開催されました。韓国、台湾からも医師の剣道愛好家が参加され熱戦が繰り広げられましたが、勝負が決しない場合は主審が年齢を訊いて年長者に旗をあげるというユニークな大会となりました。

各年代の入賞者は以下の通りです。

20代30代の部 優勝；十一竜馬、準優勝；池原卓、3位；宅見翼、友國健祐
40代の部 優勝；井上雅史、準優勝；旭典之、3位；増田健太郎、石山雄一

50代の部 優勝；大岩真、準優勝；金成喆（韓国）、3位；土居克三、山中伸悟

60代A（60～64歳）の部 優勝；新藤寛、準優勝；尾辻瑞人、3位；山下典雄、阿部正

60代B（65～69歳）の部 優勝；堀江貴、準優勝；菊池孝、3位；塚越卓、林明人

70代の部 優勝；椛島悌蔵、準優勝；池澤清豪、3位；宮坂信之、吉村了勇

80代の部 優勝；伊藤保憲、準優勝；加野資典

昼休憩の時間に龍舞（写真4）がありました。龍舞は、横浜中華学校校友会国術団によるものでスケールの大きなものでした。当初は、懇親会での披露も検討していたのですが、とてもその場所では不可能とのことで、昼休憩の時間に来ていただきました。県立武道館でできてとても良かったと思いましたがこれも武道館が許可していただいたからできたことでした。

午後は神奈川県内の4大学（横浜市立大学、北里大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学）医学部生も参加して無作為に構成された18チームによる団体トーナメント戦（学生は先鋒）が行われました。EチームとPチームで決勝戦が



写真5



写真6



写真7

ありEチーム（吉田稜平（北里大）、呂宏益（台湾）、宅見翼、石山雄一、坂田勝巳、塚原清彰、土居克三、佐久間洋、篠原義智）が優勝となりました。

閉会式では、佐藤正二審判長による講評、野見山すすむ大会会長挨拶の後、池澤清豪次期大会会長による熱のこもった挨拶がありました。

閉会式の後、参加者全員での記念撮影（写真5）があり、

その後、八段の先生方を中心に元立ちの稽古、参加者同士の稽古を行いました。

懇親会は横浜中華街に移動し、19時から北京烤鴨店 横浜中華街店で行いました。ゲストに女性コーラスグループの横浜シスターズによる横浜メドレーがあり盛り上がりました（写真6，7）。韓国、台湾チームの方々にも懇親会に出席いただきました。

今大会は、神奈川県剣道連盟の先生方には元立ち稽古及び審判の労をとっていただき、また神奈川県剣道連盟・横浜市剣道連盟・港北区剣道連盟・相模原市剣道連盟・神奈川県中学校体育連盟剣道部の皆様にはアナウンス・祐筆・受付・会場係の労をとっていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

また、この大会の運営は、野見山大会会長を中心に、今大会の実行委員会で準備を重ね開催に漕ぎ着けました。また北は北海道、南は沖縄まで、さらに韓国、台湾チーム、そして神奈川県内の医学部生の皆様、ご参加いただきありがとうございました。次回の札幌大会での再会を楽しみにしております。

横浜大会個人戦優勝者

40代の部

全日本医師剣道大会（横浜大会）を通して振り返る剣の道

井上雅史



現在、広島市立北部医療センター安佐市民病院肝胆膵外科に勤務しております井上雅史と申します。この度、第57回全日本医師剣道大会（横浜大会）の個人戦（40代の部）で優勝させていただきました。大会は一本勝負で、初めて対戦する相手との真剣勝負に緊張感があり、非常に貴重な経験となりました。この経験を励みにし、稽古を続けております。原稿の依頼を受けることができ、大変光栄に思います。

私は昭和51年1月、鳥根県出雲市に生まれました。小学校1年生の時に地元のスポーツ少年団で剣道を始め、鳥根県立出雲高校では3年間剣道に打ち込みました。大学では鳥取大学医学部に進学し、剣道部に所属しました。ここでOBである湯村正仁範士に指導を受けました。稽古は近隣の武道館や一般の稽古会にも参加し、土曜日には2部練習を行い、週に約8回の練習をこなしていました。当時、剣道仲間の中には後に全日本選手権ベスト8に進出する乗本志考君もおり、互いに切磋琢磨していました。

大学6年生の頃、実習が始まると稽古の頻度は減少しましたが、その際、湯村先生から「忙しい実習での集中力をそのまま剣道に持ってくればいい」というアドバイスをいただきました。その言葉を胸に、中四国大会では個人戦で準優勝し、西医体ではベスト8に進出するなど、自己ベストの成績を収めることができました。卒業時には「医師として剣道を続けて良かったことがたくさんある」と言っていただき、当時は続けるつもりでいたものの、研修医時代は多忙で、竹刀を握ることはありませんでした。

医師3年目の春、後輩から新入生歓迎会の電話を受け、再び湯村先生とお話しした際、「時間がないと言ってしまっただけではそこまでの人間。時間は作るものだ!」と叱咤されました。その言葉に刺激を受け、市内のスポーツ少年団で剣道を再開し、31歳で5段を取得しました。その後、鳥取大学の後輩になった乗本君が全日本選手権に出場し、2008年より日本武道館で観戦しました。2010年

にはベスト8進出を果たし、まさに夢のような気分を味わいました。さらに、鳥取大学で出場した全日本学連剣友剣道大会ではベスト8に進出し、自分の試合の写真が「剣道日本」に掲載されるという貴重な経験もしました。

広島では、倉都滋之先生と同じ病院で勤務した際、コメディカルの方々を含めた病院の剣道部がありました。毎週火曜日に基本稽古を中心に稽古を行い、倉都先生の座右の銘「継続は力なり」を実感しました。

現在は、広島で藤原崇郎範士に指導を受けています。藤原先生からは、7段審査前に「相手がやりにくいな、嫌だなど思っていることに気付いていないのでは？」という鋭い助言を頂き、合気の中で技を選択する瞬間善処の心得を教わりました。藤原先生が広島大学体育会剣道部で指導されていた際、「失敗しても遠回りしても、それが器を広げる経験になる。想定外のことが起きるのは剣道ですが、一流選手ほど想定外を想定内に収めることができる」という言葉を聞いたとき、手術に通じるものを感じました。

学会参加の際には、稽古時間を確保するために防具を持参することもあります。これまで訪れた都市は、旭川、札幌、函館、仙台、東京、横浜、浜松、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、高松、徳島、高知、沖縄となります。どこに行っても、「湯村先生や藤原先生に教わり、乗本君が後輩」と話すと、多くの方々に興味を持っていただきます。こうした恵まれた環境に感謝しています。

医師剣道大会に出場するきっかけは、広島県の医師剣士である瀬尾憲司先生から「一緒に出よう！」とお誘いいただいたことでした。しかし、残念ながら瀬尾先生は他界され、その電話が最後の言葉となってしまいました。大会で



医師剣道大会の稽古会の後、高鍋進先生と写真を撮ってもらいました。



2025年1月25日 AM6:30 広島大学体育会剣道部寒稽古での志願の雑巾掛け。広島大学体育会剣道部OB会長の村井先生のブログ「へたくそ剣道理論」に時々登場しています。藤原先生の講話などもまとめられています。ここに紹介させていただきます。

は、8段の医師剣士の立ち合いを目の当たりにし、自分の剣道との格の違いを痛感しました。また、稽古会には神奈川県警の高鍋先生も参加され、長年憧れていた先生と直接稽古をさせていただき、30代の頃に日本武道館でサインをもらった自分が信じられない気持ちになりました。この大会では、学びの多い素晴らしい時間を過ごし、瀬尾先生には心より感謝の気持ちを抱いています。

2024年4月、広島県医療剣道倶楽部の会長を引き継ぎました。剣道人口の減少や高齢化は全国的な問題であり、医療界での外科医不足とも似ていると感じます。2004年には43歳だった外科医の平均年齢が、2020年には50歳に達しています。新臨床研修制度により、若手医師が大都市圏に集中し、地方大学に残る医師が減少しています。消化器外科では、地方での医師不足が懸念されています。富山大学第二外科の藤井努教授は、「自分がされて嫌だったことはしない、自分がして欲しかったことをする」という信念のもと、外科医の人数を増加させる改革を行い、成果を上げられています。広島医療剣道倶楽部の会長としても、強引な勧誘や無意味な指導はなくし、効果的で温かい指導を目指しています。その一環として、広島県剣道8段の先生方を講師に招き、広島大学医学部剣道部と共に稽古会を開催しています。8段の先生方の指導は私たちにとって非常に貴重であり、また、学生たちの熱意にも触れ、彼らの成長を見守ることができています。この企画は、医師剣道連盟報に寄稿された、北海道の池



広島県実業団剣道大会に広島医療剣道倶楽部で参加しています。今年3位入賞しました。後列左より高本章司、中西保二（前会長）、佐々木一憲、岡有太（看護師）、水馬幸平（広大薬学部OB）、藤田康孝。前列左より井上雅史、多賀将大（大学院生）、鎌田真雛（大学院生）、福本航（筑波大学OB）、杉野健太（自治医科大学OB）。

澤清豪先生の8段研修会の内容をきっかけに始めました。次回の全日本医師剣道大会北海道大会では、栄花直輝先生のご指導を受けられることを非常に楽しみにしており、さらなる成長の機会と捉えています。

令和10年から始まる8段受審を目指して、今後も充実した日々を送りながら少しずつ成長していきたいと考えています。最後に、全日本医師剣道連盟の会員の皆様に、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

横浜大会個人戦優勝者

50代の部

個人戦50代の部優勝

大岩 真

第57回全日本医師剣道大会（横浜大会）個人戦（50代の部）において優勝させていただきました。

しかし、この結果は横浜大会でのルール（引き分けた場合、年上が勝者とする）のお陰であります。

私は第50回京都大会から参加させていただき毎年開催地が違うので旅行を兼ねて楽しく参加させております。

どこも開催地ならではの趣向を凝らした素晴らしい大会で、多数の熱心な剣道家医師との交剣智愛ができることに感謝しております。

今後とも宜しくご指導の程お願いいたします。



横浜大会個人戦優勝者

60代Aの部

剣誼永恒

新藤 寛



令和2年に全日本医師剣道連盟の創立60周年記念誌に幹事として寄稿させていただいてから早5年が経過しました。この間、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって稽古が長く中断されました。その後社会は大きく変化し、また非常に不安定な世界情勢となりました。有難いことに日本国内では漸く以前のような稽古環境が回復したように感じます。本大会も毎年開催されるようになり、多くの皆様と再会して稽古できることに感謝しています。昨年の神奈川の大会では皆様に大変お世話になりました。また優勝という栄誉を経験させてい

ただき、本当に幸せに感じています。私は60代であり昭和の青春時代を生きてきましたが、自分の剣道人生には御指導いただいた先生方、同輩、後輩はじめ多くの方々との交流がありました。御挨拶というより随想となってしまいましたが、皆様にもきっとあるような懐かしい記憶です。しばしお付き合いください。

【昭和の思い出】

令和7年1月20日は大寒でしたが、歳の所為か今年は少し寒く感じました。日曜日は朝稽古に出かけます。大寒の頃の6時過ぎは未だ陽が昇らず真っ暗です。私はいつも一番に到着するようにしています。道場として使わせていただいている学校の校門を開けて体育館の前で6時30分から一人でラジオ体操を行います。稽古中に怪我をしないように、迷惑をかけないようにと思い継続しています。その後、打突のおさらいをしている頃に皆が集まって来ます。稽古着一枚で居るのを見て皆が「寒くないですか。何か羽織られたら如何ですか。」と言いますが、随分と増した脂肪のお陰か、少しも寒くありません。この上に

何か羽織ったら、窮屈で暑くて体操も素振りもできたものではありません。寒くても稽古着一枚が良いです。寒中の稽古着といえば懐かしい思い出があります。当時、稽古着は一枚しかなく着た切り雀でした。寒稽古で濡れた稽古着は吊るして干すものの、翌朝までに乾く筈もなく、稽古着はとても冷たくなって静かに私に着られるのを待っています。日によってはカチコチに凍っていることもあります。これをどうにかして着なければならぬと覚悟を決めて「えいやっ。」と着た時の衝撃と奇妙な達成感は忘れられないものでした。これぞ昭和の時代であったのではと懐かしく思い出されます。稽古中の飲水は御法度の時代でもありました。私が医学部在学中にスポーツドリンクが開発されて、運動部にサンプルが配られ感想を聞かれました。皆、異口同音に「こりゃ汗そのものだな。」と言っていました。その後ナトリウム濃度を下げて糖分を追加して口当たりを良くして現在の商品が販売されていますね。

【剣と医】

私における剣道と医学の関係に重大な影響を与えた出来事があります。長年明かせずにきた47年前の出来事です。私の医に対する思いの原点はそこにあります。昭和52年の夏でした。高校の剣道部での稽古中に一人の後輩が倒れました。直後に意識も呼吸もない状態に陥りました。動揺した一部の部員は慌てて裸足で走って校医を呼びに行き、顧問教諭はすぐに道場に到着して心臓マッサージ（胸骨圧迫）を開始しました。まもなく救急隊も到着しましたが当時は為す術もなく彼を救命することは出来ませんでした。原因疾患は致死的不整脈であったろうと推察します。その時、現場に居たのに何も出来なかったという無力感は当時の部員皆が感じたのではないのでしょうか。

昭和61年に千葉大学医学部を卒業して医師となって千葉大学医学部第一外科に入局しました。私が外科を志したのは行動と技術をもって疾患をコントロールするダイナミックさに惹かれたからです。入局後の関連病院での研修は何でもござれの時代でした。救急医療では、外科医3人で365日を日勤当直、当直明け勤務と待機、日勤待機の連続でカバーしたこともありました。急患を救命する使命感と達成感で3次救急に携わりました。大学に戻ってから研究したのは消化器癌でした。何とか癌の壁に小さい穴でも穿ちたいと考えていました。診療所を開設して20年目になりますが、この頃の経験が現在を支えています。

【私と剣道】

私は昭和35年生まれで今年65歳を迎えます。東京の生まれですが、すぐに千葉県船橋市のとても静かな郊外に移り住み育ちました。野原や雑木林が広がり、聞こえる音は鳥の鳴き声と遠くで遊ぶ子供達の声だけというほど静かな環境でした。父は自宅の車庫を改築して近所の子供たちに剣道を指導し始めまし

たので、幼少時から剣道に接していたと思います。自宅から小学校までは片道3kmほどの道のりでした。幅員の狭い未舗装で両側が草むらの坂道を下って行けば、水田が広がり小川が流れる田園風景でした。鮒が泳ぐ姿が見える小さな橋を渡って、のどかな景色の中を小学校1年生から一人で通っていました。小学校3年生の時に同じ市内の市街地に転居しました。JR船橋駅の近くに昭和28年に竣工された春風館（船橋市）という道場があり、昭和44年頃から稽古に通うことになりました。冬の道場の床の雑巾がけでは水拭きした跡がすぐに白く凍って後ろから追いかけてくることもありました。基本に忠実に剣道を修行することの大切さを教えていただきました。基本打ちと切り返しと掛かり稽古ばかり徹底的に指導されました。限界まで全力で行うよう指導されたので特に掛かり稽古はきつかったです。当時千葉県警察の首席師範の先生もいらして稽古をつけていただいていたいました。面金の奥の目はとてもやさしく微笑んでいて、「なんのー。なんのー。」とお声がけ下さりながら稽古をつけていただいた記憶があります。その道場は残念なことに昭和53年に焼失してしまいました。私の父は都内の大学に勤務していましたが、出勤前に野間道場の朝稽古に行くのが日課でした。何度か同行して稽古をお願いする機会に恵まれたのは剣道人として有難いことでありました。高校に入学して剣道部に入部しましたが、この時春風館時代の同級生と再会しました。高校剣道部の仲間の繋がりは今も続いています。大学に入学してもすぐに剣道部に入部しました。新潟大学と金沢大学と千葉大学は交流が深く三大学戦を現在も持ち回りで開催しています。皆様も同じと思いますが医学部剣道部の繋がりはとても深く、今も新入生歓迎会や卒業生送別会には多くのOB、OGが集まっています。先日昭和63年卒の先生が大学学長に就任されたお祝いを剣道部で開催いたしました。その際、昭和57年卒の先輩がお酒を召されて「新藤が全く弱かったから俺たちは勝てなかったんだっ。」と挨拶のなかで話されました。そうしたら平成2年卒の尾辻瑞人先生がすかさず「先輩、新藤先生が弱い弱いって言われますけど先日の全日本医師剣道大会で優勝されていますよ。」と助けてくれました。そして「その決勝の相手は私です。」と付け加えられました。ちなみに私が入学した時の学4（6年生）の先輩が昭和56年卒の笠松紀雄先生です。令和8年の静岡の大会でお世話になります。現在は千葉市の美浜区高浜にある修道会という剣友会で稽古させていただいています。八段2名、七段24人が集う会です。

【感謝】

私の医道は剣道に支えられています。私の剣道は医道によって豊かにしていただきました。全日本医師剣道連盟では本当に多くの先生方と知り合うことができました。日本中の先生方と親しくしていただける機会を毎年楽しみにしています。一年に2日間だけの短い時間ではありますが、平成19年より毎年参加

して早20年におよぶ交流となりました。第44回の大会では皆様を千葉にお迎えできたことを懐かしく思い出します。守正英先生と刃引きの真剣で剣道形を演武させていただいたことは貴重な経験でした。私は医師としても剣道に繋がることが出来ました。救護医師として多くの大会に協力させていただく中で、剣道の専門家の皆様とも交流できる機会に恵まれました。これは本連盟の先輩のおかげでもあると感謝いたします。「新藤さんの打ちは大きくて遅いからダメだな。」とI範士に御指導いただきました。「剣道は手の内が大事。それがわからないのなら早めに剣道をやめたほうがいい。」とK範士に御指導いただきました。そんな剣道を少しずつ修正しながら理想とする剣道を目指して研究し、奮闘努力しているつもりではありますが。今の年齢になると（諸先輩には叱られそうですが。）元気で病気や怪我をせずに仕事と剣道が継続できていることが稀有であると思うようになりました。有難いことです。剣道をとおして人の輪がどんどん広がっていくのはとても嬉しいことです。本大会に参加することは毎年の楽しみであり目標でもあります。竹刀を交え、盃をかわして親睦を深められることは本当に楽しい。なんと行脚できてしかも開催地の錚錚たる剣道家の先生方に稽古をお願いできることは、全日本医師剣道大会の醍醐味でもあります。今回たまたま優勝できたのは今までにお教えいただいた先生方、先輩、同輩、後輩、応援してくれる周囲の仲間、家族のお陰です。本当に感謝いたします。6月の札幌の大会でまた皆様にお会いできることを楽しみにしています。池澤清豪先生はじめ開催役員の皆様にはお世話になります。宜しく願いいたします。

久々に友と竹刀を交えれば かわらぬ瞳の誼み嬉しき

最後になりましたが、全日本医師剣道連盟の益々の御発展と、会員の皆様の益々の御活躍を願ってやみません。

追記 題名の剣誼永恒（けんぎえいこう）は私の父がよく使っていた言葉です。

誼（ぎ）は「よしみ」の意味と解釈しています。

横浜大会個人戦優勝者

60代Bの部

大正世代の父と昭和55年の私

堀江 貴



令和7年は昭和100年、終戦後80年にあたります。明治、大正、昭和の中で大正時代に光が当たる事は少ないのですが、大正15年間に誕生した男子1348万人中で戦死者は約200万人と言われ、なんと7人に1人が亡くなっています。昭和6年の満州事変から昭和12年支那事変、昭和16年大東亜戦争へと続く対外との15年戦争で軍人軍属死者は230万人とされ、約87%が大正世代です。日本の歴史上、最も激烈な運命を背負わされ、生き残ったとしても、戦後の多くの苦難を果敢に生きた世代です。その一人が大正6年生まれ私の父・玄一です。大東亜戦争中、満州に我々の母親とともに赴

き、衛生兵として戦い、戦後はシベリアに抑留されました。幸い昭和22年に解放され、地元の島根県に帰還しました。母・富野も戦後父と離れ離れになり、引き揚げ途中に乳飲み子（長男）を亡くした悲しみに暮れる間もなく、命からがら、一足先に帰還したと聞いています。

九死に一生を得た父母は引き上げ後に5男をもうけました。私は戸籍上五男、実質四男として昭和30年に誕生しました。

ここからは私の剣道生活を振り返ってみます。小学校5年で地元駐在所の警察官の方に「剣道のいろは」を教わり、中学からは剣道部に入部して稽古を始めます。松江北高校では大西弘悦、和幸両先輩に徹底的にしごかれました。島根県警機動隊や島根大学に出稽古して、相手が誰であろうと怖気づくことなく、立ち向かうマインドを養うことが出来ました。そして3年生で沖縄特別国体に出場し、沖縄県と対戦、惜敗しました。木村篤太郎全剣連会長の姿と「この大会は復帰を果たした沖縄県のためにある」との言葉を噛みしめていました。

1浪の後、鳥取大学に進学して本学剣道部の上下関係を学びました。稽古前の掃除には1番乗りを目指し、授業中、雨が降れば部室前に干してある道着の

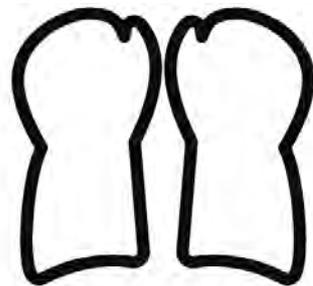
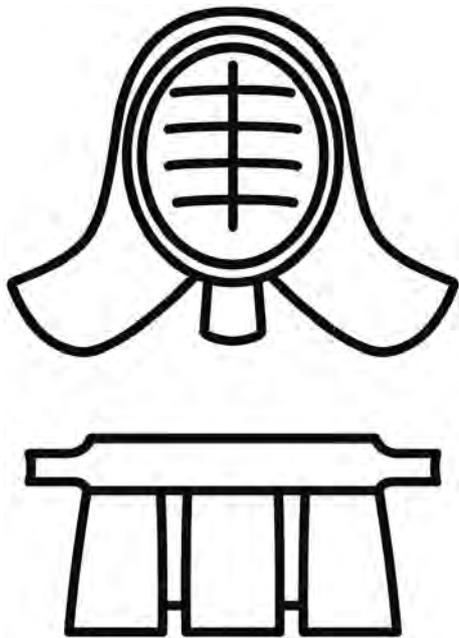
取り込みのため教室を抜け出したことを思い出します。稽古は厳しくともしっかりと評価していただき、本学でも1回生からメンバーに選ばれ、昭和50年、51年と55年全日本大会を経験しました。

昭和50年、医学部西医体では昭和36年以来2度目の優勝を果たし、京都の横関保彦先輩にお世話になり、ビアガーデンで祝杯を挙げたことは深く心に刻まれました。昭和53年医学部3年では県内大会を勝ち抜き、鳥取県代表で長野国体に先鋒として出場しました。初戦の相手は奈良県で国士舘大学卒の松田勇人氏（現在八段範士）でした。隙が無く、崩せぬまま、負けたことは覚えていません。

昭和55年全日本大会に医学部5回生となって出場しましたが、当時全日本大会に5回生が出場した例が無いと問題になったようです。その際、中四国学生連盟の先生方のお取り計らいで出場できたようです。小生がそれを知ったのは40年も経ち、中四国学連OB大会で交わした広島大学の先輩との会話からでした。

さらに昭和55年はわが人生で特別な年でした。第32回西医体が鳥取大学主管で開催されることになってから、当時最強の熊本大学に対して「打倒！熊大」を旗印に団体個人の優勝を目指し、主将として稽古に励みました。さらに大会主管として開催の準備に目の回るような忙しさでした。地元米子市剣道連盟の先生方には審判をはじめ何かとお世話になりました。鳥取県西部医師会長の中曾栄吾先生に強力にバックアップしていただいたお陰で、7月26、27日無事大会が開催でき、団体準優勝、個人優勝の結果を得ることが出来ました。感謝、感謝です。これに先立ち、6月16日には第27回中国五県剣道大会が開催されました。太田義人九段範士の推薦で鳥取県の先鋒として出場を果たし、当時、鳥取県として初の優勝を飾り、皆さんに喜んでいただきました。その10日後の6月26日に父・玄一が63歳で肺癌により死去しています。父の見舞いに出雲の病院に出かけたり、稽古の後、西医体の打ち合わせで夜遅くまで話し合ったりと、怒涛の夏を経験しましたが、様々な勝利は父親の守護のお陰だったと今は確信しています。様々な方に教えをいただき、協力してもらい、これまで剣道を続けてきました。現在、鳥取大学医学部のOB会長を務めており、これからも若い諸君のお手伝いをしながら、湯村正仁範士が掲げられる「生涯剣道」の道を歩みたいと思います。

昨年の大会では特別ルールのお陰で優勝をさせていただきました。当日、初めて剣道を観戦した小学校1年の孫が「剣道がしたい」と言ってくれましたので、年末、帰省した孫たち4人に初めて竹刀の振り方、面の打ち方を教えることが出来ました。この先1人でも剣道をしてくれれば、じいじとしての老後の楽しみが増えると期待しています。

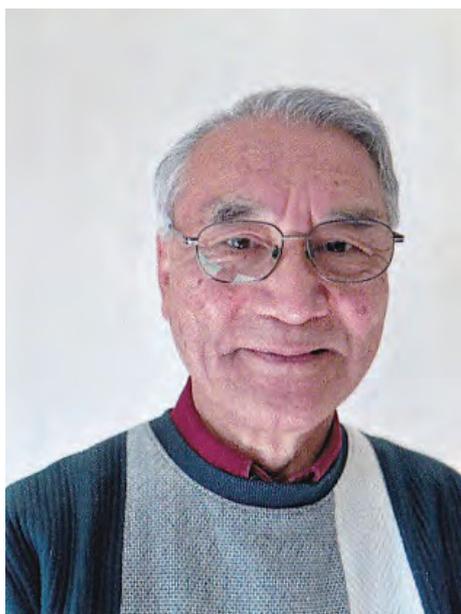


横浜大会個人戦優勝者

70代の部

個人戦（70代の部）思いもかけず優勝

椛島悌蔵



「試合時間は2分1本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は、年長者の勝ち」

77歳の私には好都合でした。

対戦する先生方の力量は明らかに私より上です。「負けてもともと、正々堂々と闘おう」と思いました。

初戦 三好博文先生（兵庫。73歳）とは、無我夢中で、勝敗決せず。

2回戦 諸木浩一先生（鹿児島・70歳）とは、「あ～、強い先生だ。ボカボカにやられるな～」との恐れが。しかし、幸いに、勝敗決せず。

3回戦 吉村了勇先生（京都。71歳）は、八段・宮坂昌之先生を制してこられた

ので、「とても無理」と。ところが、諸手をあげた瞬間、全ての動きが静上して見えたのです！！丸空きの面が目の前に……初めて一本をとりました。

続いて、これまで経験したこともない優勝決定戦。最強の八段・池澤清豪先生（北海道・70歳）が相手……無残な自分の姿が日に浮かびます。気合いの入った厳しい剣捌き。「こちらが手元をあげたらすばやく小手を打たれるに違いない」と思い、全身の力を抜き、相手の動きに合わせて面を打つしかありません。（既に他の試合会場は終了し、多くの先生方が観戦して下さっています。その熱い視線を感じながらの対戦になりました）そして、ついに終了の笛の音。すると、池澤先生が、さっとこちらに右手を差し伸べて審判に合図、勝利の旗は私に。観戦の先生方は笑顔で拍手して下さる。感激。嬉しかったです。



池澤先生との立会い



茨城県の剣友と



東京医科歯科大学同窓の剣友と

全日本医師剣道大会との関わり：

大禰一郎先生に初めてお目にかかったのは1981年。剣道・居合道を教えていただきました。大禰先生のお供で、第17回全日本医師剣道大会・広島（1983年）に初めて参加しました。東京医科歯科大学の先輩・十河勝正先生に大変お世話になりました。その後、この大会の素晴らしさに感銘し、できるだけ参加してきました。大会ごとに、いろいろな工夫がなされ、超一流の剣道家のお姿、先輩・仲間たちの、剣道に対する真摯な取り組みなど多くを学ぶことができました。「一期一会」「交剣知愛」「医剣一如」を実感します。

これからも「生涯剣道」の気持ちで、心身の健康を保っていこうと思います。

1963年 研究学園都市の筑波建設を閣議了解

1973年 筑波大学開学 1974年第1回入学式

1985年 常磐自動車道 東京と直結 国際科学技術万国博覧会（筑波科学万博）

1987年 東京駅～つくば 高速バス運行開始 つくば市誕生

第24回茨城大会（1990年 会長・大禰一郎先生）つくば市桜総合体育館で開催。

大禰一郎先生。大禰廣伸先生父子の日本剣道形。私は司会進行をさせていただく。

2005年 つくばエクスプレス（TX）開業 秋葉原～つくば 快速電車で45分

第51回茨城大会（2016年 会長・大禰廣伸先生）つくば市つくばカピオで開催。

大禰廣伸先生と実行委員長・林明人先生の名采配で「伝統文化の剣道と芸術の融合・剣道墨絵と能面の展示」の大会。

（私の大切な思い出の1枚です。）



第51回全日本医師剣道大会・茨城 大会前日の稽古かいの集合写真
（筑波大学剣道場）

前列の八段の先生（左から・敬称略）鍋山隆弘、香田郡秀、東 良美、
石塚美文、湯村正仁、佐藤成明、水田重則、大澤規男、吉沼正治、
野見山すすむ

報告 全日本医師剣道連盟稽古会（9月）

神奈川県警友会けいゆう病院 産婦人科 荒瀬 透



令和6年5月31日と6月1日の全日本医師剣道連盟大会の余韻も冷めやらぬ中、9月6日（金）午後7時より神奈川県立武道館において稽古会を開催しました。もともと神奈川県内の医療従事者が野見山会長のご尽力のもと、同施設において年数回剣道稽古会を行なっておりました関係で県内の参加者が多い一方、今回は他都県からの参加者も数名加わり30名程度の人数で稽古を行いました。今回基に立っていただいた剣道八段の先生は、野見山会長のほか、川村敏巨先生、飛知和利文先生、有馬裕史先生、北条将臣先生、高鍋進先生（年齢順）であり、普段剣道雑誌や全日本剣道

連盟の機関紙、YouTubeなどでしかお目にかかれない、名実ともに日本のトップクラスの先生方と剣を交えるのが出来るのは至福の極みです。

今回の稽古会では初めに基本稽古を行ったのち、1時間程度をかけて地稽古が行われました。会場は大規模工事を終えて間もないことから床や冷暖房は申し分ないのですが、時間厳守が徹底されているのが少々難です。そのため稽古後も掃除から着替えまで時計と睨めっこをしながら神経を張り詰めておく必要があります、ある意味ここでも「残心」を学ぶことができます（笑）。もっとも、稽古後の談話は道場を出てからということになってしまいますが。

小生は医師になってから14年間剣道から距離を置いていたため、いわゆる「リバ剣」の端くれです。ご縁があって神奈川県内の医療機関に勤務していることからこのような会にお誘い頂いておりますが、社会人になってからも剣道を一生懸命続けられている方々の輪に加わると、改めて剣道は「道」なのだと思知らされます。得手不得手の差はあれ、皆本気で稽古をされている姿は客観的に見ても美しく映るはずですし、それが故に同じ志を持つものと理解いただき八段の錚々たる先生方をご参加くださるのだと思っております。私自身稽古では見事に打ちのめされ（それが却って清々しささえ覚えるのですが）、しばらくして悔しさが多少ではありますが込み上げて来ます。「どうして打たれ

てしまうのだろう」と。ですが、稽古後の相互の礼で基立ちの先生方からの的を射た言葉をいただくと、目の付け所の違いに圧倒され、自分がなぜ互角になれなかったのか直ぐに理解できます。自身の剣道に対する心構えの不足を指摘していただけるのも稽古会の大きな魅力と捉えております。

私ども医療従事者は「人を救ってナンボ」ではありますが、業務に没頭するあまり自身の立ち位置や「何が本当に正しいのか」ということがブレてしまうことがあります。医療業界は日進月歩ではありますが、玉石混交の情報が氾濫している世の中で、ブレてはいけない道理を剣道に求めていくことが出来るのも我々の強みではないかと考えています。これからも「交剣知愛」の精神で皆様と稽古ができますことを楽しみにしております。



全日本医師剣道連盟稽古会（1月）参加報告

神奈川 坂田勝巳



令和7年1月19日（土）に神奈川県立武道館において開催された稽古会に参加させていただきましたのでご報告申し上げます。北は北海道、南は九州から多くの先生が参加しておられました。前半は神奈川の滝澤範士による日本剣道形講習会でした。1本目から形の意味、理合、勘所を丁寧に解説いただき、普段の講習会では聞けない目から鱗の深い話ばかりで、あっという間の2時間でした。お互いに不離五向を心におき、足、臍、目、剣、心を相手に向ける気持ちで形を打つと見た印象が大きく変わるとのことでした。

休憩後、稽古会が始まり、まずは神奈川剣連の鈴木八段による基本稽古ご指導をいただきました。触刃から打ち間に入る際、助走として勢いをつけるのではなく、間合に入って左足をしっかり作り、一拍子で打つことを強調されていました。その後、まわり稽古が行われ、八段の先生による指導稽古となりました。元立の八段の先生は、滝澤範士をはじめ、会長の野見山先生、北海道の池澤先生、神奈川剣連から佐藤先生、松原先生、宮崎先生、高鍋先生、飛知和先生、有馬先生、中田先生、上野先生、鈴木先生と豪華な顔ぶれとなりました。やはり元全日本チャンピオンの宮崎先生、高鍋先生には長蛇の列ができていました。会員の皆さんの熱心な稽古姿もあってか、予定より長く1時間以上の指導稽古となりました。

指導稽古の後は会員同士の居残り稽古となり、多くの先生が稽古に励んでおられました。小生も静岡から大学の後輩が2名（森、加藤）参加しておりましたので、プチOB稽古会となりました。午後1時から6時ごろまで長丁場ではありましたが、多くの剣道仲間と再会し、充実した稽古をい



滝澤範士

ただき、交剣知愛することができました。また6月の札幌で皆様にお稽古いただけることを楽しみにしております。最後にこのような稽古会を開催していただいた会長の野見山先生、事務局の塚原先生に感謝を申し上げ、筆を置きたいと思ひます。



野見山先生、宮崎先生

幹事就任挨拶「私の剣道歴」

神奈川県医師剣道連盟 高塚洋二



この度、野見山会長のご推薦を賜り神奈川県より全日本医師剣道連盟幹事に就任いたしました高塚洋二と申します。非力ではございますが本連盟のお役に立てるよう精一杯尽力する所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

私は1958年（昭和33年）生まれの66歳です。現在剣道教士七段、居合道五段で出身大学は東京慈恵会医科大学です。剣道歴は中学校で剣道部に入部したことに始まりますが、高校では一度離れ大学の剣道部で再開しました。東日本の医科大学剣道部のみなさんとは試合や稽古で切磋琢磨しながらも様々なご指導を賜りました。大学卒業後は、剣道を続けることなく19年の月日が経過してしまいました。剣道再開の切っ掛けとなったのは、2000年から人事異動に伴い英国ロンドンに赴任した時、私が大学時代剣道部に所属していたことを知る英国在住の日本人が勤務先の医療機関を訪ねてこられ、英国人と一緒に剣道をやりませんかと誘ってくださいました。20年近く稽古をしていないことに加え、剣道具の一切を処分してしまっていたので再開は難しいと考えました。しかし、少なからず興味があったので見学に行くと、英国人メンバーが日本語で「一緒に剣道をやりましょうよ」と誘ってくれました。英語が苦手な私が剣道を通じて英国人と交流できる絶好のチャンスと思い再開することに決めました。それが私の第二の剣道人生の始まりでした。英国では「無名士」という剣道クラブに所属し毎週日曜日に行われる稽古に参加しました。更に年に一度ロンドンで行われる夏合宿では福岡の角正武範師に指導を受け、英国にて剣道五段を取得しました。その他英国剣道連盟のメンバーや遠征先のフランスやベルギーの剣道愛好家たちと稽古や試合を行ったり、ヨーロッパ剣道連盟と日本剣道連盟が共催する審判講習会に日本からいらした多くの師範の先生方に稽古をつけていただいたり、ヨーロッパでの楽しい剣道生活を送りました。2003年の5月に帰国し、いくつかの大学関連病院に所属したのち、2005年4月に横浜で内科医院を開業いたしました。横浜では前神奈川県剣

道連盟会長の小林英雄範師に師事し、全日本剣道連盟主催の京都演舞大会への参加をはじめ多くの経験をさせていただきました。現在は主に横浜市内の剣道公武会で稽古をしております。居合道に関しては、現東日本居合道研究会の六代目会長の小林忠雄範師に師事し現在も指導を頂きつつ上を目指して稽古に励んでおります。大学時代は自分の意志で入部したにも関わらず、剣道をやらされている感覚がありました。しかし、近年は剣道や居合を心から楽しむことができるようになったと実感しております。残りの人生を実り多きものとするため、剣道と居合道のさらなる精進をしていく所存でございます。長くなりましたがこれが私の剣道人生を中心とした自己紹介になります。

さて昨年6月に神奈川県医師剣道連盟が主幹で第57回全日本医師剣道大会を横浜市で開催し、全国津々浦々から多数のご参加を賜り盛大に催すことができましたことは神奈川県医師剣道連盟一同心より感謝いたしております。本年は6月に北海道札幌市にて全日本医師剣道大会が開催されます。北海道大会の大盛會を祈念するとともに来年以降も本会の開催を継続するために働くことができれば幸いです。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

生涯剣道

阿蘇医療センター 事業管理者・院長 甲斐 豊



私は、小学2年生から、自宅近くに新設された剣道場「順道館」(熊本市北区)で剣道を習い始めた。その当時は、一学年20人は在籍しており、館長が西島末彦氏で自衛官OBであったことから、指導者は全員自衛官の剣道経験者であった。公務員であるため、指導料は一切取らずボランティアで指導いただいた。道場三訓(一、私は礼儀を守ります 二、私は父母の教えを守ります 三、私は鍛えた体で勉学に励みます)を毎日、稽古前に全員で唱和し厳しい稽古を継続した。6年生になると、一学年はレギュラー5人に絞られたが、精鋭メンバーにより熊本県内の小学生の大会で、複

数回の団体優勝をする強豪チームに育ち、日本武道館での全国大会にも出場した。道場三訓を守ったおかげで、メンバー5人のうち3人はその後、医学部に進学し、私は熊本大学、1人は防衛医科大学、もう1人は鳥根医科大学剣道部のキャプテンとして西医体・東医体で活躍し、団体優勝・個人優勝も経験した。

医師になり、脳神経外科を専攻したこともあり、忙しさを理由に10年ほど剣道の稽古から遠ざかってしまっていた。2001年4月 第36回全日本医師剣道大会が熊本で開催され、笹原 登先生(当時 御船 笹原医院院長)が大会会長に就任された。事務局長は由布雅夫先生(当時 菊池恵楓園園長)が大会準備をされ、私が事務局の実働部隊として携わった。

熊本大会で、立ち合い(同じレベルの参加者同士が、2分間の模擬試合を行う)が行われた際の大將戦は、東軍が大会会長の笹原 登先生(92歳)、西軍が、茨城 大祢一郎先生(92歳)であった。お二人あわせて180歳を超えるとアナウンスがあった。当時笹原先生は、歩行時に杖を2本使われていたが、竹刀を持たれるときちゃんと構えられ、そのお姿は剣士然として気品さえ漂い、ふだんは杖に頼っておられる方とはとても想像し得ないものがあった。会場の参加者の多くが感動の余り眼に涙して見守る立ち合いとなった。この光景は私の

胸に今もなお刻まれている。医道も剣道も一貫された生涯に心を打たれた。
(両先生は共に2005年に96歳でその生涯を閉じられた。)

これをきっかけに剣道の稽古を再開した。大学生時代に取得した五段のままから昇段できずにいたが、2010年に六段、2011年 錬士、2017年に七段、2019年 教士を取得できた。2020年から新型コロナウイルス感染症対応で、4年間 稽古ができない状態が続いたが、5類感染症に移行後、年間100回を目標に2024年から稽古を再開した。今後、七段取得10年後に八段審査が受けられるので、2027年受験を目標に生涯剣道を継続し、「継続は力なり」の精神でチャレンジしたいと考えている。



幹事就任のご挨拶

石濱英暢



この度幹事を仰せつかりました香川県の石濱と申します。私は、中学1年から剣道を始めましたが、とにかくしんどい稽古は嫌いで、竹刀で野球、剣道具をつけてのボクシングをしては、先輩や先生に怒られていました。それでもなぜか高校も剣道部に入り、真面目に稽古をした記憶は全くありませんが、剣道部の雰囲気が好きで辞めることなく続けました。日本医科大学でも、履歴書が剣道初段ということで、先輩におだてられ、なぜかまた剣道部に入りました。大学での剣道は、稽古は厳しいのです

が、そのあと、ほぼ欠かさず毎回夕食を兼ねた飲み会があり、先輩からのわかりやすい？箸を使った剣道談義、勉強、恋愛の話など、剣道の稽古とそのあとのお酒の楽しみを教わりました。師範が、警視庁の小沼宏至先生、友川紘一先生だったため、ある日、警視庁の第4機動隊に出稽古に連れていかれ、無謀にもそこで練習試合を行い、団体戦で想定外に勝ってしまい、そのあとの地獄のような稽古は今でも良い思い出です。東京医大、慶応大学、慈恵医大、順天堂大学、防衛医大、独協医大、日本大学、東京大学などにも出稽古でお邪魔し、医師剣道大会では、当時の懐かしい同世代の先生方と再会して、稽古、試合、そのあとの飲み会など学生時代の延長の楽しさを味わえるのも、医師剣道連盟の醍醐味だと思います。昭和61年に日本医科大学を卒業後、岡山大学第2内科に入局しました。学生時代に父が急逝したため、神戸市立西市民病院、坂出市立病院、香川労災病院で研修し、平成元年に27歳で実家のクワヤ病院を引き継ぎ、63歳の現在に至ります。大学卒業後は、10年ほどは剣道から離れていましたが、香川県の竹和会という同好会に入会し、剣道を再開しました。社会人での剣道は、自由に自分のペースで稽古でき、レギュラー争いをせずとも試合に出られ、その後の打ち上げもあり、学生時代より更に剣道ライフを楽しんでいます。全日本医師剣道大会には、高松高校の20年先輩で、公私ともにお世話になっている伊藤保憲先生の紹介で、平成15年の福岡、宗像ユリックスでの第38回医師剣道大会に初めて参加させて頂きました。まず、剣道を楽しんでおられ

る高段者の先生が大勢いらっしゃることに驚きました。また、初めての大会参加で緊張している私に、菅先生が宗像大社への移動中のマイクロバスの中で気さくに話しかけて頂き、和気あいあいとした雰囲気になりました。奥様と一緒に参加されている先生も多くおられ、奥様同士も仲が良いのも印象的でした。私の妻も令和5年の新潟大会から応援デビューし、仲間に加えて頂き楽しんでいるようです。医師剣道大会に参加し、稽古、試合で竹刀を交えて、懇親会でお酒を酌み交わす度に、新しい医師の剣友が増え、まさに医師剣道連盟は交剣知愛です。平成29年に関東医歯獣医科大学剣道大会連盟創立60周年記念大会が、母校の日本医大が主管で、東京医科大学記念館で開催されました。東京医大OBの萩原先生にお願いして剣道形を演舞する事となり、私は東京に、萩原先生は高松にいられて剣道形と稽古をして、その都度、美味しい食事と楽しいお酒を酌み交わしました。肝心の剣道形は本番で間違えてしまって焦りましたが、うまく切り抜けた？のも楽しい思い出です。この度、伊藤先生の後任として幹事を仰せつかりました。誠に力不足ではありますが、できる限り努めて参りたいと思います。

幹事退任挨拶

箕田修治



この度、幹事を退任することになりましたが、事務局より退任挨拶をするようにとのことでしたのでご挨拶申し上げます。

私は1967年（昭和42年）中学で剣道を開始し、熊本高校、熊本大学（医学部は全学と一緒に）で剣道部に所属し、学生時代はほとんど剣道が中心の生活でした。卒業後は医療に専念し剣道から離れましたが、2008年6月リハビリを主体とする民間病院へ勤務を変わってから、仕事とそれ以外の時間にメリハリがつき、自分の時間をもつ余裕

ができました。高校時代の剣道仲間との飲み会で仲間の一人から思いがけず竹刀のプレゼントを受け、これが私の気持ちを一押しし、2009年6月から約30年ぶりの剣道再開となりました。高校剣道部OB会、地域剣友会、県の武道館合同稽古会などが主な稽古場となりました。長年の運動不足から剣道の稽古の再開には大きなエネルギー・心構えを必要としました。特に武道館の稽古会への参加は八段位の先生方に稽古をつけていただくことでハードルが高く決死の覚悟で参加しました。剣道継続のためにはモチベーションが必要と思い昇段審査を受けることにしました。再開後1年で四段を取得、その後順調に五段、六段を取得し、来年4月70歳で七段挑戦予定です。

また一方で健康剣道を実践しようと健康スポーツについて勉強を始め健康スポーツ医の認定医を取得し、日本体育協会（現在日本スポーツ協会）の認定スポーツドクターを取得しました。私の専門は脳神経内科で、脳卒中後の麻痺の患者さんに集中的リハビリで麻痺の改善を図っていますが、80-90歳の高齢者でもリハビリ意欲があれば良くなることを経験し、高齢でも心身を鍛えれば加齢による衰えをある程度防げることを確信しました。剣道では自分の体力や技術向上がわかりにくいため、体力向上がわかりやすい指標があればと60歳の還暦を機に一念発起し、熊本城フルマラソン参加を決意しました。9月よりジョギングを開始しましたが、開始前に冠動脈CTを施行し、心筋梗塞のリスクをチェックしました。翌年2月の大会では4時間45分で完走しました。その後も仕事が終わった後、週2回程度の剣道と週3回程度のジョギングを継続し、62

歳時には4時間8分と自己記録を更新でき、身体は鍛えればまだまだ伸びるものであることを実感しました。

全日本医師剣道連盟とは私が熊大医学部に入学した1974年（昭和49年）に笹原 登先生を会長、由布 雅夫先生を事務局長として熊本で開催されたときに、会場の補助員として、その後の懇親会にも参加させていただいたのが最初でした。剣道再開後は、熊大の後輩で今回幹事に就任されました甲斐 豊先生に誘われて、2012年鳥取で開催された全日本医師剣道大会への参加が初めてでした。熊本からの参加者は二人と少なかったのですが、会場には沖縄から1年先輩の奥島憲彦先生や鹿児島から1年後輩の諸木浩一先生等大学時代の仲間にも会えて楽しく過ごすことができました。この大会で熱烈な剣道愛好家の先生方が全国に大勢おられることを知りました。由布先生の都合が悪く幹事会に出られないときに代理出席をした後から、私が幹事となってしまったようです。自分ではその任にふさわしくないとはいながらも、熊本からの参加者が少ないためお受けしておりましたが、今年70歳となりますのを機に幹事を辞させていただくことになりました。今後とも全日本医師剣道大会にはできるだけ参加したいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

全日本医師剣道連盟の益々の発展を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。

定年後の剣道を考える

茨城県つくば市 林 明人



私は現在68歳、順天堂大学を65歳で定年、その後は順天堂大学名誉教授・客員教授として脳神経内科外来と特別予約診察室外来を担当。月に4-6回、自宅のある茨城県つくば市からお茶の水の順天堂医院に1時間半かけて通勤、パーキンソン病やジストニアなどの難治性の不随意運動など脳神経内科領域の他大学からの紹介患者や外国からの依頼患者を診療している。ほぼボランティア（大学からの給与は東京都の最低賃金の時間給！）であるが、これまでの経験や新しい知識を得ることを継続すること

に役立っている。何よりも自分の専門性を活かしている場を持つことが有難い。とはいっても経済的な理由もあるので、そのほかに自宅から30-40分圏内で千葉県や茨城県にある地域の中核病院6ヶ所を日替わりで勤務、脳神経内科外来を担当している。毎日異なる病院に間違えずに行かなくてはならないのでスケジュール管理は重要である！

私にとって定年後の最も大きな変化は、現役時にあった教授会や診療会議などから解放され、夕方以降は自由な時間となり趣味などに使えるようになったことである。学会、ガイドライン作成委員会や新しくスタートアップしたパーキンソン病の音楽アプリ会社のオンラインミーティングなどはあるが、それ以外の通常の毎日はほぼ剣道の稽古に充てることが可能となった！



というわけで、週7-8回の稽古を楽しむのが定年後の私の剣道生活である。水田重則範士の主催される水田道場で月曜は面を中心の基本打ちと水曜は日本剣道形を前半行い、後半は地稽古の稽古内容で、基本打ちも形も実際の地稽古に活かせるように師範され意識している。火曜はつくば地区の桜剣友会が夜8時からで椛島先生を含めて4名の地元医師剣道家も参加している。木曜は自燈スポーツ少年剣道教室で小中学生の指導に当たり、基本打ちなど自身が留意している点を言葉にして師範できるように努めている。60歳年下の剣道仲間である子供たちと一緒に剣道を楽しんでいる。

金曜は歯科医師の大岩先生らと基本を見直しながら稽古。土曜は建武館という神社の境内にある古い道場で自衛隊の方々とは稽古をいただいている。ここの道場の鍵をもらっており好きな時に使わせていただけることに感謝。日曜は笠間にある直心館、そのほかに茨城県剣道連盟や地区の合同稽古会にできる限り参加。また筑波大学の香田郡秀範士と都合が合うときに稽古をいただいている。東京では、鹿児島県人会の稽古会である三州会（島津藩であった薩摩州、大隈州、日向州）や鶴丸高校剣道部のOB稽古会に参加など、剣道三昧の日々である。

剣道をするのに大きな支障はないが、痛いところはないわけでもない。昨年、右肩腱板部分断裂も肩MRIでわかった。自由に稽古をできるようになったからといって、若い時のように無理するわけにはいかない。年齢的にも生涯剣道を実践する上では体のメンテナンスをしながら健康・安全にさらに留意して剣道を楽しみたいものである。

剣道は楽しい！剣道を通して多くの方々と知り合うことができたことに感謝している。剣道が私の人生をより豊かにしてくれていることは間違いない。

自分は剣道も人間的にも未熟であることを自覚している。その分まだまだ成長できるのではないかと感じている。77歳での八段審査など目指して強くて美しい剣道を目指して生涯剣道を楽しみたいものである。



日本高齢者武道大会
2024年6月3位入賞



ねんりんピック鳥取
2024年11月 best8



第35回学連剣友剣道大会 2024年12月 順天堂大学3部大将 3位入賞



医師剣道大会（交剣知愛）

昭和大学62年卒 大西 司



わたしが医師剣道大会に参加したのは第41回神奈川から千葉、三重、仙台、長崎、京都、つくば、高知、東京、沖縄、新潟、第57回神奈川までの12大会です。

初回参加した神奈川大会では宮崎正浩先生に稽古をいただき、紙一重で見切ること、まっすぐな面を学びました。千葉の大会から千葉大の尾辻先生と対戦することが多くなりました。三重の大会では会長中山尚夫先生のおもてなしの心を感じました。仙台の大会では長崎からこられた阿保先生と意気投合し懇親会でも随分盛り上がったことを覚えています。翌年の長崎大会では懇親会の出し物あり思いで深い大会でした。京都では同郷の香川の伊藤先生と同室になりゆっくりお話をする機会をいただきました。

つくばでは大学の先輩大祢廣伸先生が会長を務められ^{*1}、団体戦で見事優勝されました。高知の大会は故郷の四国でもあり参加し、大学先輩で噂に聞いていた強者杉本先生と娘さんに会いました。東京大会では地元ということで油断もあり午後の試合の直前に到着し、韓国からこられていた金億先生が襷をつけてくださり、試合場所を教えてくださいました。それが縁で以後交流が続いています^{*2}。沖縄大会は個人的なこともありためらいもありましたが意を決し飛行機に乗りました。先輩の清水先生と空港でお会いして向かいました。沖縄の成田先生とは以前から医療も剣道も繋がりがあり、団体戦で清水先生とともに同じチームで戦いました^{*3}。新潟では後輩の安川先生兄弟妹の立ち切り稽古があり、傍観していた台湾からこられた先生の背中を押して参加したことが心に残ります。神奈川大会の前日の稽古会では着替えていると目の前に山下と書いた方が立っており、防衛医大の山下選手であることを知りました。学生時代に彗星のように現れた山下選手と試合をしたいと思い、母校が関東医歯薬獣大会の主管の時に一回戦で対戦させていただきました。今でも覚えています。静かな中にとてつもない強さを感じました。思い切って諸手突きに行った

ところ、少し体を引くと思うとわずかな隙間の胴を切られました*4。次に面に行ったところ、小手を打たれ切り落とされたと感じました。小手を取ってみると赤く竹刀の跡が残っていました。その後、先輩たちも打ち破り優勝されましたが、後輩の堀内が嬉しそうに襷をつけたのだと話していたことを思い出します。そのような思い出をお話しして40年ぶりに竹刀を交えさせていただきました。ブランクがあると言われていましたが技のキレには天性の才能があるのだと思いました。

大会以外でも多くの先生と交流があり、30年近く前に鹿児島出張の折に面識ができた諸木先生には、昨年春、次男の卒業式に防具を持参し鹿屋市の武道場で稽古をいただきました。また順天堂の林先生には5月の昇段審査の折にアドバイスをいただき一緒に合格することができました*5。その他、篠原先生や中井先生ご夫妻、関東医師剣と方々には大変親しくさせていただきました*6。感謝しています。

今年は京都大会にも参加してみようと思います。台湾や韓国にも一度尋ねていきたいと思っています。

わたしが剣道を始めたのは死生の間には本当のものがあると思っていたためです。竹刀を刀と思って遣うようにと教えてくださった川合義信先生の言葉は肝に命じたいと思います。また剣道部だけでなく医学の方でもお世話になった中島宏昭先生の義父、稲村孝之助先生に教えていただいた直心影流『法定』は継続していきたいと思っています。また竹刀を交える時には『交剣知愛』よろしくお願いします。



* 1 : 第51回つくば大会 大祢廣伸先生 栗田和士郎範士ご夫妻とともに



* 2 : 第54回東京大会 韓国医師剣道連盟 金億先生とともに



* 3 : 第55回沖縄大会にて



* 4 : 関東医師薬獣大会にて山下選手と初戦で対戦



* 5 : 令和6年5月名古屋審査会場にて



* 6 : 第56回新潟大会にて関東医師剣道連盟の面々と

奇跡の合格

武石浩欣

2024年8月の仙台での七段審査に合格させて頂きました。合格率25%でした。

おそらく私が今までの人生で受けた試験、審査で最も最難関です。

私は小学校3年から剣道を始め、中学で初段、高校で二、三段、大学で四段と順調に1発合格し、医師になってしばらく剣道しない生活をして、全く稽古しないで五段審査を受験したところ、不合格。当たり前と言えば当たり前ですが、初めての不合格に、かなりショックを受けました。

そして、28、29歳時に千葉県の病院に出向となり鴨川シーワールドのすぐそばに住んでいた時、近くに有名な道場があり、そこで剣道を再開することになり、無事、五段へ昇段出来ました。その後、東京に戻り、また、しばらく剣道から離れてましたが、都内の病院時代、心臓血管外科に、志村信一郎先生（現、東邦大大橋病院、教授）が当時、在籍しており、その頃、志村先生は剣道に異常なまでの情熱を注いでおられました。志村先生に、世田谷の国士舘高校（剣道では超強豪）で、夜、大人の稽古会、土曜日の朝稽古を、やってるので一緒に行こうと誘われて、仕事終わりの夜、出勤前の土曜日の朝、国士舘高校で、再び剣道を再開する運びとなりました。ちょうど、そのタイミングで、息子が小学1年生となり、神奈川県では強豪の光武館道場に入門し、息子だけでなく、私も光武館の茅先生にも御指導して頂くようになりました。また、関東医師剣道連盟という謎の組織があることを知り、志村先生と恐る恐る、その

稽古会にも参加したところ、多数の医師の先生が熱心に稽古されており、定期的に稽古会に参加するようになりました。そして、35歳で、六段昇段審査の受験を開始。ところが、これが毎回不合格。年に2回受験し、40歳までには受かるだろうと過信してましたが、39歳で不合格。もう、完全に心が折れました。

もう一生、六段審査は受験しないと、心に決めましたが、45歳で、医学部の後輩が六段を受けるので、一緒に受験しましょうと誘われて、45歳で渋々、受験再開。

後輩は合格、私は不合格。更に心が折れました。



しかし、50歳までに何とでも、合格したいと一念発起し、46歳で合格。この時は嬉しすぎて泣きそうでした。青森からの帰りの新幹線、全席満席で立ちながら、一緒に合格した、塚原先生（東京医大、耳鼻科教授）と東京駅着くまで、祝杯をあげました。

さて、六段合格後、6年経過して、七段の受験が許可され、1発目の受験です。8月の仙台の審査を一応申し込みはしておきました。ただ、本当に受験するか、審査2日前まで悩んでました。

なぜなら、審査の2日後にロサンゼルス旅行（ミーハーですが、大谷翔平の試合を現地観戦）を控えており、審査に落ちて、暗い気持ちで旅行したくないなあという気持ちが強く、今回は受験するのを中止しようと2日前まで悩み、仙台のホテルも予約せずにいました。

ただここ数年、神奈川県警察の現役、OBの先生方に御指導いただきましたので、普段稽古つけていただいている先生達より、強い相手はそうそういないだろうという自信もあり、今ならもしかして受かるかもという淡い期待を持ち審査前夜、急遽カプセルホテルを予約して仙台に向かいました。当然、剣道形の練習は全くしておらず、新幹線の中で、剣道形のYouTubeを見まくりです。





さて、審査当日です。朝、後輩と剣道形を打太刀、仕太刀、1回確認します。昨日のYouTubeでのイメージトレーニングの成果あり、とりあえず大丈夫そうです。

そして、実技審査です。私は番号忘れましたがDでした。なので、対戦相手2人を事前に見ることが出来ました。お二人とも、オーソドックスな剣風で、とりあえずトリッキーな剣風でなく安心。もう面だけで勝負してこようと決意し、無心で終了。終わった瞬間、何とも言えない充実感。とりあえず打たれた記憶は全くなし、それぞれに二本、私の面入ってたかな？という、うろ覚えの記憶。結果は、まさかの1発合格です。六段であれだけ苦労したのに、これは奇跡なのか？不思議な気分になりました。帰りの新幹線での、牛タン弁当が劇的に美味しかったです。これでロサンゼルス旅行に、明るい気持ちで行けると安堵。無事、現地でのデコピン始球式、大谷翔平の42-42を現地観戦することが出来ました。奇跡的に1発合格できたのは、普段御指導頂いてます、医師で八段の野見山先生はじめ、神奈川県警の皆様、東海大医学部剣道部の後輩達、息子がお世話になってた光武館道場の茅先生、色々な方々の御指導があつての合格です。本当に感謝申し上げます。

七段昇段は、私の剣道人生としては、ほぼゴールと思っております。あとは教士の称号を取得出来たら完璧です。八段は神の領域だと思っておりますので、そこは目指しておりません。今後は身体を壊さない程度にゆるーく、生涯剣道を実践したいと思います。

今後ともよろしく申し上げます。



私が医師になってからも稽古を継続できた理由

平成12年 順天堂大学卒 伊藤 伸



平成12年に順天堂大学を卒業し、はや25年が経とうとしています。この間コロナ禍を除き大きなブランクなく剣道の稽古を継続できたのは、多くの方々とのご縁があったお陰であったと心より感謝申し上げます。現在は、東京都大田区剣道連盟に所属し、母校の順天堂大学剣道部や城北学園で行われる無門会でも稽古させて頂いており、お世話になっている関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。更に私の稽古の大きな軸となっているのが東京科学大学（旧東京医科歯科大学）の剣道場をお借りした日曜日、祝日に朝7時から行われる医療関係者を中心とした稽古会です。読者の多くが医療関係者である全日本医師剣道連盟報ですので、本稽古会についてご紹介したい

と思います。記憶間違い等あるかもしれませんがご容赦ください。

大学卒業後しばらくは、研修医、若手医師として、臨床、研究など多忙な日々を送られると思います。私が医師国家試験に合格した25年前には、働き方改革という言葉は当然ながら存在せず、朝早くから夜遅くまで働くことも多く、懇親会も今とは比べ物にならないくらい多かったと記憶しています。そんな生活は決して悪いことばかりではありませんでしたが、どの様に剣道に向き合い稽古時間を確保したらよいか悩み、1学年先輩の東京医科歯科大学の越智小枝先生にご相談しました。越智先生とは、学生時代から大学の垣根を超えて、機会を見つけては日本医大の同期らと一緒に稽古をさせて頂いたご縁がありました。そこで至った考えは、「朝、仕事に行く前に稽古すれば



良いのでは？」で、更に比較的時間の確保しやすい「日曜日、祝日の朝に稽古をしてから仕事に行けば稽古も仕事も両立できるよね」、でした。それからお互いが転勤や留学などで参加できない期間がありつつも、現在までコロナ禍で稽古ができない期間や参加人数を制限せざるを得ない状況はありましたが、約20年間、東京医科歯科大学の道場をお借りして稽古会を継続することができました。現在では、名簿に登録いただいている医療関係者は38名に増加しており、研修医の先生から我々まで幅広い年齢層の方々が登録され、稽古会に参加されてから六段、七段に昇段される方も増え、出身大学や学年、職域の異なる方々から剣道、仕事、家庭の話に至るまで様々な面から刺激を受け、息抜きにもなっています。1回の稽古には5～7名程度の参加者があり（多いときは10名を超えることもあります）約1時間の稽古で真剣勝負かつ楽しみながら汗を流しています。数年前には、剣友たちが案を出し合って本会に、越智先生と私の名前から1文字ずつとって枝伸会と名付けてくれました。なんだか少し恥ずかしい思いですが気に入っています。本稽古会を継続していくに当たって、私が最も注力したいのは、自分がそうであった様に若手医療関係者の稽古継続に何とか力添えしたいということです。私がこれまで剣道を継続できたのは、本稽古会に参加頂いた剣友の皆様のお陰でありますので、今後も枝伸会の活動を通して後輩たちに恩返しをしていきたいと思っております。この1年間で経験した喜びと悲しみを一つずつ紹介します。喜びとしては学生時代に東京医科歯科大学で稽古を始めるきっかけとなった剣友がリバ剣で稽古会に戻って来てくれたことです。悲しみは、昨年6月に本会の発展に大きく貢献してくれた大事な剣友を若くして失ったことです。一喜一憂、色々ありましたが皆さんとともに剣道を楽しみながら、お互いへの感謝を忘れず、生涯剣道を実践していきたいと考えています。

最後に本稽古会の開催に関して日頃よりご尽力いただいている伊豆様に厚く御礼申し上げます。



〈稽古風景〉

「変わりゆく日本文化」

全日本医師剣道連盟事務局長
東京医科大学・耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野 主任教授
塚原清彰



街に外国人観光客、労働者が増えました。新宿も例外ではなく、むしろ渦中にあります。私の勤務する東京医科大学には国際診療部があり、中国などのアジア圏を中心として、病院と患者さんの間にコーディネーターが入り、海外とつながったZoomでセカンドオピニオン診療を行います。もし、日本での治療を希望した場合、医療滞在ビザで訪日、自費診療が開始されます。当院の場合、1点30円計算を原則とし、デポジットで未払いを防止します。値段については様々な御意見があるかと思いますが、通訳

の時間が必要で、文化の違いによって、様々な要求が出てくるので、現場としては妥当から安めかと感じます。事実、当院の19階特室病棟には中国人通訳が常駐するほど、多く外国人患者さんがいます。当初驚いたのは、治療方法の説明をすると、「とにかく高い薬を使ってくれ」と回答されることでした。治療効果のエビデンスは関係ないのです。ここ数年、学会に行くときのホテル宿泊代高騰に辟易とさせられますが、背景には円安の影響だけでなく、「高いホテルをありがたがる観光者文化」もあるのかもしれません。

コンビニエンスストア、ファーストフード店など、外国人労働者も増えています。今では「いらっしゃいませマクドナルドへようこそ」の声を聞くことはなくなり、セルフオーダー機械、モバイルオーダーになりました。理由は言語の問題だけでないようです。かつてマクドナルドのメニューには「スマイル0円」とありました。マクドナルド50周年記念サイトによると、これは1980年代の大阪、つまり日本発です。日本人的には「笑顔が接客の基本」と思っていますが、世界では異なり、「いつでもお客様を笑顔でお迎えする」と会社側から感情コントロールを命じられることは「感情労働」と呼ばれ、心身を壊すリスクが非常に高いという位置付けになります。つまり、直接店員とお客が接しないことが、店員のメンタルを守る最良の方法ということになります。味気



合理的かもしれないが、汚れが長時間人前に放置されていることに不快感を覚える。

ないと感じる一方で、合理的でもあります。最近、私がコンビニエンスストアで最も気になるのは「ゴミ袋が直接おいてある」ことです。確かに狭い入り口から奥のゴミ箱袋に入れるより、間口は広いし、最後の回収も楽です。ゴミ箱から袋を出すときに溢れることもありません。しかし、個人的には汚れが長時間人前に放置されていることに不快感を覚えます。

多様性の社会になり、様々な価値観が認められるようになりました。日本人なら「武士は食わねど高楊枝」ですが、外国人的には高楊枝をしていたら「お腹いっぱい＝食事は不要・手に入らない」となります。柔道・阿部詩選手がオリンピックで敗戦後、畳の上で号泣した姿に、剣道家の皆様は複雑な思いを持たれたのではないのでしょうか。驚懼疑惑を心に起こさず、勝負の結果に関わらず、顔色を変えないで最後の礼をするという剣道文化は日本が持つ美しさの一つです。私の主業務は頭頸部手術で、会長を務めさせていただいた第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会で、頸部郭清のライブサージェリーをさせていただきました。大観衆に見て頂く中、平常心を保ち、口を回しながら、無事に手術を終えることができました。また、手術終了後に会場の京王プラザホテルに移動し、質疑応答も行うという目標も達成できました。これは剣道による心の修行なくてはできなかったと感じています。51歳、主任教授10年目にして、東京医科大学剣道部剣友会会長で東京都剣道連盟会長・全日本医師剣道連盟名誉会長も

務められた伊藤元明先生が「医剣一如」と常におっしゃっていた意味が少し分かってきた気がします。



会長を務めさせていただいた第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会で、頸部郭清のライブサージェリーを行った。「医剣一如」の修行なくしてはできなかつたと感じる。

静岡大会（第59回大会）告知

第59回全日本医師剣道大会へのお誘い
「いいら！ 静岡 一緒に楽しもう、交剣知愛」

第59回全日本医師剣道大会会長 笠松 紀雄
千葉大学昭和56年卒 剣道教士7段



全日本医師剣道連盟会員の皆様。
私は大会本部より光栄ある第59回全日本医師剣道大会の静岡県開催を仰せつかり準備を現在進めております。今回この誌面で現時点での決定内容の告知を行いますのでご承知と今後の情報へのご対応をよろしくお願いいたします。

【期日】（予定 変更可能性あり）

令和8年4月17日（金）大会前稽古会：

「藤枝市」武道館（静岡県藤枝市駅前3-21-1）

4月18日（土）午後+19日（日）午前 大会：

「静岡県」武道館（静岡県藤枝市前島2-10-1）

【大会会場】

静岡県武道館 ☎426-0067静岡県藤枝市前島2-10-1 TEL054-636-2332



【懇親会】

令和8年4月18日（土）夜 藤枝市市内予定



静岡は富士の壮大な姿と美食（茶、鰻、鮪）で知られていますが、全日本医師剣道大会の静岡県での開催は、昭和56年（1981年）第16回（内田智廉大会会長）が静岡市民体育館で行われて以来45年

ぶり2回目となります。今回、開催地となる藤枝は①JR 東海道新幹線静岡駅から東海道本線乗り換え20分、②静岡空港から路線バスで約40分（¥500）またはタクシーで約30分（約¥5,000）、の良好なアクセスであり、また大会会場となる県武道館、前夜稽古会の市武道館は藤枝駅（周辺宿泊施設多数あり）からそれぞれ徒歩で5-10分と良好な条件です。

静岡県在住医師剣道家は決して多い訳ではありませんが、以下のスタッフで力を合わせて運営いたします。交剣知愛、生涯剣道の実践の場として楽しい大会を目指して本大会を計画していきますので、ご参加、ご協力のほどをよろしくお願い致します。



【運営役員】

北濱義博（大会実行委員長、平成9年浜松医大卒、剣道練士6段、藤枝市）、
森 浩輝（平成7年三重大卒、剣道練士6段、焼津市）、
加藤純一郎（平成10年三重大卒、剣道練士7段、富士市）、
松下正矢（平成11年名古屋大卒、剣道5段、浜松市）、

【後援、協賛】

全日本医師剣道連盟
静岡県剣道連盟
藤枝市剣道連盟
浜松医大剣道部現役、OB 一同

事務局からのお知らせ

- ①全日本医師剣道連盟ホームページ
<http://japan-medical-kendo.jp>



- ②連絡先
全日本医師剣道連盟事務局 塚原清彰
住 所：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内
F A X：03-3346-9275
e-mail：tsuka@tokyo-med.ac.jp

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、次のページのPDFを使用するか、上記のメールアドレスまでご連絡下さい。
※PDFは、全日本医師剣道連盟ホームページ ⇨ 連絡用書類 のページからダウンロードできます。

- ③年会費
年会費（1万円）を下記口座にお振り込みの程よろしくお願ひします。
なお、依頼人名には会員の先生のお名前をご記入ください。
振込手数料は各自でご負担願ひします。

振込先：みずほ銀行
新浦安支店（店番号 342）
普通 1984793
全日本医師剣道連盟事務局
（ゼンニホンイシケンドウレンメイジムキョク）

- ④寄付
ご賛同の会員の先生は、ご寄付をよろしくお願ひいたします。
協賛費は金額を問いません。
振込先は年会費と同じです。

会員登録・変更の手続き

全日本医師剣道連盟 連絡用 PDF

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、この PDF に記載して、以下のいずれかの方法で連盟事務局にお知らせ下さい。

1. FAX する。 03-3346-9275
2. e-mail : tsuka@tokyo-med.ac.jp に添付して送る。
3. 郵送する。 送付先：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内
全日本医師剣道連盟事務局 塚原清彰

いずれかに○	入会 ・ 退会	段位・称号変更	住所変更	電話番号変更	メールアドレス変更
--------	---------	---------	------	--------	-----------

以下のすべての項目に記載し、変更点のある場所を大きい○で囲ってください。

ふりがな

氏名

生年月日（西暦）

出身大学

段位称号

郵便物送付先住所（いずれかに○ 自宅 ・ 勤務先） 〒

携帯電話番号

固定電話番号

メールアドレス

備考

全日本医師剣道大会記録

回次	開催年	日程	開催地	大会会長
第57回	令和6年	5/31 - 6/1	横浜（神奈川県立武道館）	野見山すすむ
第56回	令和5年	4/8 - 4/9	新潟（県立ふれあいプラザ）	荻荘 則幸
第55回	令和4年	4/16 - 4/17	沖縄（沖縄県立武道館）	奥島 憲彦
第54回	令和元年	5/18 - 5/19	東京（東京医科大学記念館）	稲村 征夫
第53回	平成30年	4/14 - 4/15	岩手（北上市総合体育館）	菅 義行
第52回	平成29年	4/8 - 4/9	高知（高知県立武道館）	谷木 利勝
第51回	平成28年	4/2 - 4/3	茨城（つくばカピオ）	大柵 廣伸
第50回	平成27年	4/11 - 4/12	京都（京都市武道センター）	吉村 了勇
第49回	平成26年	6/5 -	長崎（長崎県立総合体育館サブアリーナ）	萬木 信人
第48回	平成25年	6/22 -	宮城（仙台市青葉体育館）	今村 幹雄
第47回	平成24年	4/7 -	鳥取（鳥取県立武道館）	飯塚 幹夫
第46回	平成23年	4/9 -	東京 — 東日本大震災により中止 —	伊藤 元明
第45回	平成22年	4/10 -	三重（県営サンアリーナ）	中山 尚夫
第44回	平成21年	5/23 -	千葉（千葉ポートアリーナ）	遠山 富也
第43回	平成20年	4/19 -	兵庫（兵庫県立武道館）	松井 英互
第42回	平成19年	4/7 -	大阪（豊中市立体育館）	宮坂 昌之
第41回	平成18年	4/15 -	神奈川（相模女子大体育館）	野見山すすむ
第40回	平成17年	4/16 -	大分（大分別府市民体育館）	広瀬 信道
第39回	平成16年	4/17 -	大阪（大阪コスモスクエア国際交流センター）	鏡山 博行
第38回	平成15年	4/5 -	福岡（宗像ユリックス）	加野 資典
第37回	平成14年	9/14 -	札幌（札幌市総合体育館）	道下 俊一
第36回	平成13年	4/14 -	熊本（熊本大学総合体育館）	笹原 登
第35回	平成12年	4/15 -	広島（広島県立総合体育館武道場）	十河 勝正
第34回	平成11年	4/3 -	東京（東京医科大学記念館）	山崎 衛
第33回	平成10年	11/21 -	鹿児島（鹿児島アリーナ）	楠元 忠雄
第32回	平成9年	9/14 -	岩手（岩手県営武道館）	中村 好和
第31回	平成8年	9/22 -	沖縄（沖縄県立武道館）	永山 薫
第30回	平成7年	4/9 -	愛知（江南市民会館）	村瀬 守男
第29回	平成6年	10/16 -	東京（東京医科大学記念館）	宮地 誠

回次	開催年	日程	開催地	大会会長
第28回	平成5年	10/10 -	福岡（県立久留米体育館）	熊丸 治
第27回	平成4年	9/27	香川（高松市総合体育館）	畠瀬 修
第26回	平成3年	4/17	京都（京都市武道センター）	横関 誠夫
第25回	平成2年	9/23	茨城（つくば第3県民センター）	大禰 一郎
第24回	平成元年	9/15	宮城（仙台・県武道館）	鈴木 仁一
第23回	昭和63年	9/11	鳥取（米子・市民体育館）	中曾 栄吾
第22回	昭和62年	4/4	東京（東京医科大学記念会館）	大禰 一郎
第21回	昭和61年	9/14	京都（京都市武道センター）	根本 浩介
第20回	昭和60年	9/15	千葉（千葉県武道館）	綿貫 重雄
第19回	昭和59年	10/27	岡山（岡山武道館）	日下 連
第18回	昭和58年	4/9	大阪（久保田鉄工中央体育館）	中村周吉郎
第17回	昭和57年	10/10	広島（キリンビール広島工場体育館）	藤井 実
第16回	昭和56年	11/7	静岡（市民体育館）	内田 智康
第15回	昭和55年	5/25	長崎（市民体育館）	前田 信良
第14回	昭和54年	4/8	東京（東京慈恵会医科大学体育館）	海老原千春
第13回	昭和53年	9/23	愛知（名古屋・愛知県スポーツ会館）	三輪田 薫
第12回	昭和52年	11/13	山口（下関市立山ノ田中学校体育館）	桃崎 正香
第11回	昭和51年	5/16	新潟（県立総合体育館）	外山 司郎
第10回	昭和50年	4/6	京都（武徳殿）	
第9回	昭和49年	5/25	熊本（県武道館）	笹原 登
第8回	昭和48年	10/13	札幌（札幌体育館）	内藤 詩郎
第7回	昭和47年	9/15	高知	川田 茂宏
第6回	昭和46年	4/3	東京（日本武道館）	伊藤 京逸
第5回	昭和45年	10/24	京都（武徳殿）	高岡 謙次
第4回	昭和44年	8/15	宮城（仙台・県立スポーツセンター）	松川 金七
第3回	昭和43年	2/18	東京（衆議院第一議員会館剣道場）	伊藤 京逸
第3回	昭和42年	4/1	名古屋（名鉄体育館）	伊藤 京逸
第2回	昭和38年		大阪（大阪城内・修道館）	伊藤 京逸
第1回	昭和34年		東京（後楽園・全剣連・中央道場）	伊藤 京逸

編集後記

全日本医師剣道連盟報 第33号をお届けします。

昨年から今年にかけては、MLBでの大谷選手の大活躍、パリ五輪での日本人選手の活躍など、スポーツでの明るいニュースがあった一方で、復興中の能登半島を襲った豪雨や各地での大雪、最近では岩手県大船渡市の大規模森林火災など、災害のニュースも多くありました。お見舞い申し上げます。

今年は、第58回全日本医師剣道大会が札幌で開催されます。本報にも、札幌大会会長である池澤清豪先生による熱のこもった大会概要とプログラムを掲載いたしました。

前回大会・第57回全日本医師剣道大会（横浜大会）の開催記を大会実行委員長・江端広樹先生からいただいております。また、同大会の年代別個人戦で優勝の榮譽に輝かれた井上雅史先生（40代）、大岩真先生（50代）、新藤寛先生（60代A）、堀江貴先生（60代B）、椛島悌蔵先生（70代）からご寄稿をいただきました。大会の熱気が蘇ってくるものと存じます（札幌大会では、八段の先生との模範稽古も予定されているようです）。

また、9月と1月に行われた全日本医師剣道連盟稽古会（於：神奈川県立武道館）の様子を荒瀬透先生（9月）、坂田勝巳先生（1月）にご報告いただいております。本当に豪華な顔触れで、充実した稽古会の様子が窺えます。

続いて、新幹事となられた高塚洋二先生、甲斐豊先生、石濱英暢先生、ご退任された箕田修治先生からご挨拶のご寄稿をいただいております。

寄稿は、林明人先生「定年後の剣道を考える」に始まり、大西司先生「医師剣道大会（交剣知愛）」、武石浩欣先生「奇跡の合格」、伊藤伸先生「私が医師になってからも稽古を継続できた理由」と続きます。昨年、七段に合格された先生方からのメッセージは読み応え十分です。

最後に笠松紀雄先生から頂きました、次回大会・第59回全日本医師剣道大会（静岡大会）「いいら！ 静岡 一緒に楽しもう、交剣知愛」のご紹介を載せております。どうぞ、お見逃しなく。

今年も充実した内容で年報をお届けできることをうれしく思います。また、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。6月には北海道の大地と、北海道のスター？（本編参照）池澤清豪先生が皆様を待たれていることと存じます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

令和7年3月

事務局長補佐 稲垣 太郎



令和7年4月

【事務局】

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内
事務局長 塚原 清彰

FAX：03-3346-9275

e-mail：tsuka@tokyo-med.ac.jp